国語科（国語）調査資料１－１

書名 項目		新編　新しい国語　2　東　書
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり		○本編、基礎編、資料編の３部構成で、基礎編、資料編では、本編の学びを深める内容が配列されている。 ○言葉の力をつけるために、多彩な言語活動を重視し、社会生活で必要な力を習得して活用できるよう、系統的に教材が配列されている。 ○四季に関する表現や生活に根ざした歳時記を積極的に取り上げ、伝統文化に親しみ先人の教えから学ぶ態度を育てるよう、教材が配列されている。
特色	内　　容	**＜基礎的･基本的な知識･技能を習得する工夫＞** ○「言葉の力」では、学年ごとに習得と活用を繰り返しながら、３年間で系統的に基本的な知識、力が積み上がるように配列されている。 ○教材ごとに基本的な学習用語を確認、整理できるページが設けられている。 **＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞** ○「学びの扉」「学びを支える言葉の力」では、各領域に共通して必要となる「言葉の力」を鍛えるよう、学習で身につけた力を活かすことができる演習が組み込まれている。 **＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞** ○巻頭折り込みに学習の見通し持たせるための教科書の使い方があり、自主学習でも生徒自身が身に付けるべき学習のポイントが示してある。 ○１年間の学習の流れが教材名とともに図式化されている。 **＜言語感覚を養うための工夫＞** ○文法教材は、ゲーム感覚で学べる「文法の窓」と文法事項が整理されている基礎編「文法解説」で構成されており、練習問題により文法の定着が図れるようにされている。 ○巻頭「四季を楽しむ言葉」で、写真も参考にしながら四季を楽しむ暮らしと言葉に関心が持てるようにされている。 **＜国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫＞** ○各学年とも「読書」の学習教材に読書案内が施され、テーマ別や名作紹介など生徒の多感な興味に応じられるように配慮されている。 ○１年の古典の学習では「古典の世界」という特殊教材があり、古典学習の導入に工夫が見られる。 ○１年の段階で「著作権と引用」について解説し、著作者の権利について意識させている。
	資　　料	○巻頭の折り込みに、国語学習の意義と進め方や１年間の見通しが示されている。 ○キャラクターが効果的に用いられていたり、文法学習ではゲーム感覚で学習できるようになっていたりして、学習意欲を高める工夫がされている。 ○「読書案内」では、読んでみたいという関心たせるための簡単なあらすじが掲載されている。
	表記・表現	○活字が見やすく重要な部分の認識がしやすいように、文字の大きさと書体、罫線や囲み、色使いが工夫されている。 ○小学校で学習していない漢字には、ふり仮名が振られ、生徒の抵抗感がないようにされている。
総　　括		○全学年７つの単元と「基礎編」「資料編」で構成されており、「読むこと」では、「読み取る」「考えを深める」の２段階の学習課題を示している。それぞれの教材で身に付けさせたい知識・技能のポイントを「言葉の力」で示して、３年間で系統的に積み上げさせるようにしている。「学びの扉」で学習した後、「学びを支える言葉の力」で国語学習の基礎を学べるようになっている。

国語科（国語）調査資料１－２

書名 項目		中学校国語	１１ 学　図
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり		○本編は「絆」「生命」「群像」「伝統」「世界」の５つの単元で構成されており、そえぞれに親しみやすい課題に取り組むことで、各指導事項が習得できるよう工夫されている。 ○各学年の目標・内容が漏れなく指導できるように、課題の発見、解決するための体系的な学習や学習の振り返り、実際の言語生活へのフィードバックという一連の学習の流れが確保されている。 ○古典の世界をより深く味わうためのコラムや、扉ごとに紹介されている詩歌などをとおして、伝統的な言語文化に対する関心や認識を深めさせるよう工夫されている。	
特色	内　　容	**＜基礎的･基本的な知識･技能を習得する工夫＞** ○「読むこと」で学習の仕方や身に付けたい力がチェックできるように「学びの窓」や「ついた力を確かめよう」のコーナーが設けられ、わかりやすい設問で構成されている。」。 ○「漢字を見抜く」では漢字の基本的な成り立ちから歴史などを説明し、例も多様である。 **＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞** ○「発見する読み」では物語を読み進めるヒントが書かれ、視点を変えて思考力を深めようとしている。 ○教材ごとの確認問題に解答スペースがあり、生徒が解答しやすくなっている。 ○「活動を考える」では話を聞いた後、話すポイントを決めて演習へとつなげている。 **＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞** ○「学びの窓」では「読む前に」「読み深める」「まとめ」の順で学習を進め、最後に自己評価の流れで構成されており、自主的な学習が取り組みやすくなっている。 ○教材の下段に目標が明記され、身に付ける力がチェックしやすいようになっている。 **＜言語感覚を養うための工夫＞** ○単元扉に短い詩を載せて、声に出そうと意欲付けをしている。 ○漢字や古典学習に力を入れている。漢字は段階を踏んで学習できる構成となっている。 ○現在活躍している作家の作品を多く起用し、現代的な言語感覚を磨くようにしている。。 **＜国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫＞** ○共通のテーマで単元設定がされており、テーマを意識して学習に臨むことで、系統的な力が身に付くよう工夫されている。 ○古典の言葉や生活に興味・関心や理解を深めるために、語釈や古方位等の解説がある。 ○教材の最後に「読書を広げるために」という本の紹介コーナーがある。	
	資　　料	○全学年で日本の文学史年表や、文法活用表があり、確認しやすい工夫がなされている。 ○色調が落ち着いており、言葉とともに内容の理解やイメージ・思考を深めさせる口絵や挿絵が用いられている。 ○各領域の色を統一し、今何を学んでいるのかわかるように整理された、シンプルな表記がなされている。 ○巻頭では、小学校で学んだ作品を例に挙げ、中学校への接続に配慮されている。。	
	表記・表現	○脚注では、語句の意味や対義語が説明されている。絵や図を使っている部分もある。 ○中１・２年では、脚注に新出漢字だけでなく、小６で学んだ漢字も示されている。	
総　　括		○全学年５つの共通したテーマ別の単元と「言葉の学習」で構成されており、学年が進むごとに掘り下げた内容となっている。「学びの窓」では、「読む前に」「読み深める」「まとめ」の３段階の学習課題を示して教科書に書き込める欄を設けており、「ついた力を確かめよう」では各自の学習の成果を確認する設定になっている。学習者に応じた学習活動が可能となるように、各単元に活動の選択が可能な教材が設けられている。	

国語科（国語）調査資料１－３

書名 項目		現代の国語 １５ 三省堂
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり		○本編と資料編の二部で構成され、本編では目標を設定し、思考力や表現力を伸ばす手立てが示され、資料編では実践的な方法や知識がまとめられている。 ○「見通し」と「振り返り」を明確にし、学び方を学び、活用する実践力を身につけるための内容が配列されている。 ○写真やイラストを用いたり、口語訳や解説を充実させることで、伝統的な言語文化に対し、関心を持って学べるよう工夫されている。
特色	内容	**＜基礎的･基本的な知識･技能を習得する工夫＞** ○学習の系統性を重視し、それぞれの学年で身に付ける力が明確にされている。また、教材は小学校からのつながりをふまえ、基礎基本から取り組めるようになっている。ねらいがすっきりとしていて、見通しをもたせ、学習の振り返りもできる工夫がされている。 **＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞** ○「学びの道しるべ」で目標を設定し、読み方、考え方のヒントが示されている。 ○個の学習を保障しつつ、交流、協働する活動を通して、自己の思いや考えを深めたり、集団としての問題解決を図る場が設けられている。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」は、「読むこと」の教材と関連づけて示されている。 **＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞** ○領域別教材一覧が見やすく、目次に文種が明記されている。 ○各教材に学習目標を示し、学び方と過程を意識しながら学習し、やり遂げた達成感と次への課題や生活実践に生きる力を実感できるように、各教材や課題が設定されている。 **＜言語感覚を養うための工夫＞** ○中学校段階でふれておきたい作品や言語文化を取り上げ、現代での価値を理解させながら、知識と感性を育み、言語感覚を豊かにする工夫がされている。 ○「読む力を伸ばそう」では、A ～ C のコースから課題を選ぶことによって様々な方法があることが示されている。 **＜国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫＞** ○作品ごとに「小さな図書館」といった読書案内があり、一言ずつコメントが付されていて読書意欲をそそる工夫がされている。 ○各単元の初めのページに学習目標が明記され、身に付けさせたい力について見通しを持たせている。
	資料	○読書の広場、考える広場、参考資料などが充実しており、学習者が興味・関心がもてる工夫がされている。 ○伝統的な言語文化の文章などは、写真や絵巻などをともに提示し、わかりやすく示されている。 ○巻頭に一覧で、つけたい力と言語活動例が示されている。
	表記・表現	○活字はとても見やすく、識別しにくい配色を避け、色の濃淡や罫線などの工夫もされ、使いやすいよう配慮されている。 ○必要に応じて、図やグラフ等のデータが示され、絵の説明がされている。
総括		○中１・２は７つの単元、中３は６つの単元の「本編」と、「資料編」で構成されている。「学びの道しるべ」では、読むことについて「内容を整理しよう」「考えを深めよう」「学びをひろげよう」の３段階の学習課題が示されている。「読み方を学ぼう」では、何をどのように読めば力がつくのかという読みの方略を図解で示し、それぞれがどのような言語活動の中で活用できるのかが説明されている。

国語科（国語）調査資料１－４

書名 項目		伝え合う言葉　中学国語　　１７ 教　出
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり		○本編は７～８の単元で構成され、言語と文法、漢字、言葉の自習教室が後半に設けられ、言葉の力を確実に身につけられるように工夫されている。 ○国語学習としての習得や活用だけでなく、伝え合う力の育成を目指し、日常生活や他教科の学習にも活かせるように教材が工夫されている。 ○日本の伝統文化を継承する態度を育成するために、視覚資料やコラムを充実させ、古典に興味を持ち、楽しみながら学べるよう教材が配列されている。
特色	内　　容	**＜基礎的･基本的な知識･技能を習得する工夫＞** ○各教材で身に付けさせたい力が整理されており、習得から活用への流れをふんだ学習が簡潔にできるように工夫されている。 ○教材ごとに「ここが大事」という解説が設けられており、その教材で掴ませたい基礎的な技能が習得できるようになっている。 **＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞** ○「みちしるべ」では、確かめよう、深めよう、考えようの３段階で考えを深め、わかりやすい設問で、表現する力を身に付けられるように配慮されている。 ○「ここが大事」で様々な文章の読解方法を示し、考え方のヒントを与えている。 **＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞** ○「みちしるべ」では具体的な言語活動を、「ここが大事」では学習のポイントを確認するという一連の流れを教材化して、考えながら自ら学習活動に取り組ませる工夫がされている。 ○学習したことをもとに、さらに活用できる課題が施され、学習意欲を高めている。 **＜言語感覚を養うための工夫＞** ○国語学習の習得に留まらず、実生活や他教科にも生かせる工夫として、全ての言語教材に１ページの導入教材を設けている。 ○各学年の巻末に「言葉の自習室」があり、読み物や伝え合う活動に必要な資料がある。 **＜国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫＞** ○１年の導入単元は、小中連携の視点を踏まえ、小学校で学んだことを基に学習が進められるように、作品や学習活動が配慮されている。 ○古典教材では視覚資料の充実、コラム教材の設定により、伝統文化を継承する態度を育てる工夫がされている。
	資　　料	○色彩はあまり多くの色を使わず、作品を象徴する色が使われており、生徒の発想の広がりを助ける工夫がされている。 ○図版を多用し、わかりやすく解説されている。 ○話す・書く活動を通して、伝え合いが円滑にいくための資料が提供されている。
	表記・表現	○発達段階に応じた字の大きさが用いられている。本文は行間を広くとり、書き込みができるようになっている。 ○学年ごとに学習テーマが色別で表示されており、生徒が強く印象に残るような工夫がされている。
総　　括		○中１・２は８つの単元、中３は７つの単元と、言葉と文法、漢字、言葉の自習室で構成されている。「読むこと」では問題解決の道筋に沿って学習ができるように「確かめよう」「深めよう」「考えよう」の３段階の学習課題が示されている。言語活動を重視し、言葉の力を高めるために、身につけさせたい力や学習のポイントが明示されている。「学びのチャレンジ」では、思考・判断・表現力を高めるための発展的な問題が設けられている。

国語科（国語）調査資料１－５

書名 項目		国　語　　３８ 光　村
教育基本法、学校教育法の下、学習指導要領の教科の目標とのかかわり		○本編は７つの単元で構成されており、それぞれ学習にかかわる言葉を掲げ、身につける力が明確化されている。文法、漢字、資料編は後半に配置され、整理して学習できるよう配慮されている。 ○継続的な学習や主体的な学習の大切さを理解し、話し合い活動を通じてコミュニケーション能力を育成するように、様々な教材の工夫がされている。 ○伝統的な言語文化を受け継ぐため、優れた作品を積極的に取り上げ、それを享受しながら新たな創作へとつないでいく態度を育成するように配慮されている。
特色	内　　容	**＜基礎的･基本的な知識･技能を習得する工夫＞** ○各教材の領域ごとに「目標」を明示し、身に付けたい力が示されている。 ○「学習の窓」では目標、手順、ポイントが示されている。また振り返りや、次へのつなぎ、生活に生かす学習により、あらゆる生活場面に生かせるように設定されている。 **＜思考力、判断力、表現力等を育成する工夫＞** ○思考と認識を高めるため、発達段階に沿って、１年は確かさ、２年は豊かさ、３年は深さと目標を立て、それに基づいた教材や活動を配列している。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」で、学習者同士が伝え合う力を身に付けさせるようにしている。 **＜主体的に学習に取り組む態度を養う工夫＞** ○巻頭に「学習の見通しをもとう」や「いつも気をつけよう」を設け、生徒自ら学習の見通しをもち、学習のポイントでヒントを得て、学習後は自己評価できる自主学習に配慮した工夫がされている。 **＜言語感覚を養うための工夫＞** ○各学年の４カ所に「季節のしおり」を設けて、四季にちなんだ詩歌や季語を紹介し、季節感や言語感覚を磨くように工夫されている。 ○各学年に「続けてみよう」を設け、年間を通して語彙を増やしたり、言語感覚を日常的に磨けるよう工夫されている。 **＜国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てるための工夫＞** ○本を紹介する「広がる読書」では、同一の作者、テーマ、題材などを扱った本を紹介し、違うジャンルでも読書活動を広げていけるよう支援している。 ○漢字を習得する力を身に付けるために、「読むこと」の教材と関連させながら、新出漢字、音訓を使った練習問題が設けられている。
	資　　料	○「学習の窓」では、目標や振り返りを設定し、身につけたいポイントがわかる配慮がなされている。 ○学習をしてさらに読むべき作品が示されており、書く力、話す力など社会生活の中で必要なコミュニケーション能力を高める資料が充実している。 ○「言葉に出会うために」を設定し、小学校から中学校へ円滑な連携が図られている。
	表記・表現	○学習の冒頭に見通しをもたせ、わかりやすく流れが示されている。 ○脚注に生徒の理解につながる地図や写真などが、適宜使用されている。
総　　括		○全学年７つの単元と巻末の文法・漢字・資料・付録で構成されている。「読むこと」では、「確認しよう」「読みを深めよう」「自分の考えをもとう」の３段階の課題を示し、「学習を振り返る」で学習の成果を確認させるようになっている。言語活動で身につけた言葉の力を日常生活や社会生活で生かせるように「生活に生かす」「他教科に生かす」が設けられている。従来の定番の作品や話題性のある良質な教材が多く取り入れられている。